

お城の一本杉



長岡市と板町は、今、大河ドラマ天地人ブームで沸いています。謀略と裏切りに明け暮れた戦国時代。上杉謙信から義の教えを受け、生涯主君上杉景勝を支え、愛の前立てと共に、越後の統一と民への愛に生きた与板城主直江兼続と妻お船。領民からの信望も厚く、与板での新婚時代の日々は二人の生涯で最も輝いていた時期だった事でしょう。

兼続は城下の開墾に力を注ぎ、当時の鉄砲や刀剣、農具の製作技術は、今も金物の町と板に受け継がれ、信濃川を利用した市場の開設など産業の発展にも力を尽くし、城下町としての繁栄の基礎を作りました。

兼続が築いた与板城はふもとの大手口から15分程度。目を凝らしながら登ると、山全てが自然の地形を生かした山城であり、更に多様な仕掛けが加えられたとされ、春日山城同様まるで堅固な要塞だった事でしょう。中越を一望する見晴らしのよい本丸跡に大きな一本の老杉が残っています。豊臣秀吉の命により上杉家が会津へ国替えのおり、記念に杉の木を5本植え、落雷や強風に耐え残った1本と伝えられ、樹齢約400年、目通り約3.5メートル、往時が偲ばれる堂々とした巨木です。

UQ記

より少ない農薬でより大きな効果を!

殺虫剤の散布適期



満月

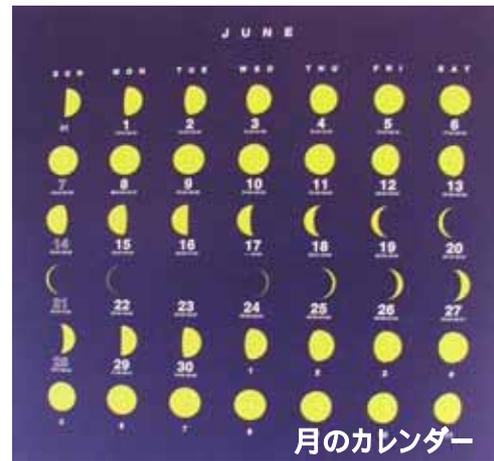
防除適期

6月8日(月)	12(金)・13(土)
7月7日(火)	11(土)・12(日)
8月6日(木)	10(月)・11(火)
9月5日(土)	9(水)・10(木)

月のリズムと害虫発生メカニズム

サンゴの産卵は満月の夜であることは良く知られています。地球上の生命体は、すべからく太陽の影響下にありますが、その生理は、最も近い天体である月に大きく左右されています。夜行性である昆虫の世界では交尾・産卵については動物界より直接的に月のリズムに支配されているようです。サンゴの産卵同様、害虫とされる昆虫は圧倒的に晴れた満月の夜に産卵されている場合が有力と言えます。孵化は産卵の3~4日後ですので、害虫防除の適期は、満月から4~5日後が最適と言えます。試してみましょう。

専務理事 楚山 誠一



月のカレンダー



山河花園 眩しい新緑の中、連休に栃尾から山古志を回って来ました。高速料金の千円効果から帰りた。人達か、県外ナンバーが目立ち、盛んにシャッターを切っていました。闘牛を見たいという前橋ナンバーのご夫妻、開催日は終わったばかりなので、池谷の闘牛飼育場を教えました。報道で知った地名を自分の車で改めて巡って見ると、道路や山肌の復旧工事はほぼ終わり、あちこちに出来た山菜等の直売所に人が集まっています。田植えも始まり、元気な山の様子にほっとしました。昨年の秋放鳥された朱鷺。その生態や飛行能力に驚かされるばかりです。海を渡り、県境をまたいだことで、飛来地はもとより、朱鷺への関心が一気に高まりました。朱鷺の定着を目指して、島の自然環境の回復に取り組んできた佐渡では、農産品の安全性を朱鷺のブランドで売り出しています。新潟県をはじめ、本土側でも里山や、水辺の自然環境を再生し、生物多様性が確保され、安全安心な食料が生産されるようになれば、どこでも朱鷺を見かけられる時代になるかも知れません。人と朱鷺が安心して暮らせる必要があり、今真剣に探る必要が

UQ記